

令和6年度 八王子市立南大沢小学校 学校経営報告書

八王子市立南大沢小学校

校長 安田 尚民

I 学校経営の基本理念

『…「仲良く、元気で、頑張る子」という南大沢小学校の学校教育目標を具現化するために、八王子市教育振興基本計画に基づき、豊かな自然と温かな地域という環境を活かし、「知・徳・体」のバランスの取れた児童を育成することを目指す。…学校づくりのテーマは、令和5年度に引き続き「すべての子供が笑顔になる学校」とする。学校開校40周年の節目の年に、「だれ一人取り残さず」「常に子供を中心に据え」「笑顔を生み出すひと・もの・ことの交流」を実現する場としての学校を、子供、教職員、保護者、そして地域が協働して創っていく。…』

着任2年目の本年度は、開校40周年の節目の年であり、本校及び周辺地域の物的・人的資源を最大限活用しながら、これまで培い、積み上げてきた本校の伝統の上に、新たな学校の価値を付加するべく、子供の成長軸と持続可能な地域資源の連携を一層進めた実践を重ねた。コロナ過で途絶えがちになっていた点を線で結び、多世代交流、地域防災などの拠点として学校が街づくりに主体的に参画する構想の具現化を目指した。

II 学校教育目標の達成に向けた取組

1 目指す学校像

～『すべての子供が笑顔になる学校』～

- (1) 学年の垣根を越え、互いの存在を認め、関わり学び合う学校
- (2) 上級生が下級生の手本となり、下級生が上級生に憧れを抱く学校
- (3) 失敗を恐れず、挑戦する姿勢をみんなが応援する学校
- (4) 地域に愛され、地域に誇りと愛着を感じる学校

目指す学校像は令和5年度の6項目から4項目に整理した。理想とする児童像や教師像を実現する環境としての学校像は、地域の実態、小規模特例校としての特色、そして開校40周年という節目を踏まえた上で、「すべての子どもが笑顔になる学校」実現の必須条件を考えた。文末を「学校」に統一し、学校内外の誰もが具体的な姿をイメージしやすいものとした。異学年交流については、縦割り班活動に限らず、授業や休み時間など様々な場面で交流機会を増やし、特に4年生以上の児童がリーダーシップを発揮する中で、主体性と責任感が育ってきた。全校朝会や学級指導の中で「失敗」は「挑戦」の証であり、「成功」以上に学びの多い「価値ある経験」であることを繰り返し伝えてきた。その結果、お互いを支え合う思いやりが様々な場面で見られ、これまで課題だった「指示待ち」の傾向は少しずつ解消され、「自分事」として積極的に企画提案しよう、という高学年が増えた。こうした学校の姿は開校40周年記念式典及び関連行事で地域や保護者に広く発信することができた。改めて地域の愛情と期待を背負った学校であることを認識する1年となった。

一方で、「いじめ」や「不登校」の克服については、未だその途上である。SNSの利用が増え、児童の人間関係の複雑さが低年齢化していることから、ネットのモラルやリテラシーの学習を低学年まで広げ、全ての教職員が子供たち一人一人に関わり、SSWをはじめとする専門機関との綿密な連携をより一層進めることが必要だと感じている。次年度以降の計画に盛り込んでいく。

2 目指す児童像

～「知・徳・体」のバランスの取れた児童～

- ◎仲良く（徳）…進んで協力し、認め合い、思いやりのある児童
- 元気で（体）…体を動かすことを楽しみ、気力・体力・意欲のある児童
- 頑張る子（知）…好奇心をもち、よく学び実行力・継続力のある児童

学校評価では「学校教育目標」の認知について保護者の93%の肯定的な回答をいただいた。各学級、特別支援教室、日本語学級では、定期的に児童の様子を中心とした学校生活の現状を「学級だより」として発信し、学校と家庭が一枚岩になって児童を育成する意識が高まった結果によるものだと考えている。道徳授業地区公開講座の意見交換会への参加も、全家庭の30%近くと非常に意識が高く、学校の問題意識を共通していただけていると実感した。一方で、学校の教育目標では長年「仲良く」を重点として取り組んできたが、一定程度の成果は出ていると考え、令和7年度は「元気で」を重点項目とし、「仲良く」で培った児童の協働的な態度を生かしつつ、豊かなスポーツライフの基礎となる体を動かす心地よさ、運動の日常化を今後の重点として中心に据えていきたい。

3 目指す教師像

～児童にとって最も影響力のある教育環境は、教師自身である～

- (1) 教育に対する熱意と使命感をもち、率先垂範、プラス思考で努力する教師
- (2) 児童と共に学び成長しようとする、豊かな人間性と思いやりのある教師
- (3) 児童理解と授業改善に努め、子供のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師
- (4) 公務員・社会人としての常識をもち、組織人として積極的に協働し互いに高め合う教師

「児童にとって最も影響力のある教育環境は、教師自身である」という覚悟と自覚を、すべての教職員が認識し、「すべての子供が笑顔になる学校」という理念を実現できる環境づくりに責任感をもって取り組んだ。学校公開のアンケート、学校評価アンケートなどからは、教師のファシリテーション、児童のリーダーシップの機会創出、間違いを受容し、新たな探究のきっかけにしようとする校内の風土、そしてホームページや学級通信を通じた児童の生き生きとした姿の発信を高く評価するコメントをいただいた。一方で小規模校、単学級編成という状況は、マンパワーの不足と多忙状況の慢性化を招いており、業務の効率化、ライフワークバランスのための意識変容など、働き方改革を一層進めていく必要がある。

4 中期的目標（令和5年度・6年度）

- (1) 学力の定着と向上
- (2) 心と身体健康づくり
- (3) 特色ある教育活動の取組（保幼小連携、小中一貫、特別支援教育の充実）
- (4) 地域・家庭と連携した協働的な学校づくり
- (5) 組織的な学校経営と職務の適切な執行

2年間の計画の最終年度として、学校の中期的目標の達成を目指した。小規模、豊かな自然環境、地域の積極的なサポートなど恵まれた教育環境を生かし、「南大沢小学校オンリーワン」の教育実践を続けてきた。特に「学力の定着と向上」、「地域・家庭と連携した協働的な学校づくり」については、大きな成果が上がった。具体的な内容について、以下に振り返る。

Ⅲ 令和6年度の重点目標の達成について

1 学力の定着と向上

- | |
|---|
| (1) 「できた、分かった、高まった」の実感ある学び（主体的、対話的で深い学びの実現）
(2) 一人一台端末の効果的な活用のための系統的指導（GIGA スクール構想の進展）
(3) 「自主的自発的な学びの実現」を目指した創意工夫ある授業改善（校内研究の充実）
(4) 読書活動の活性化のための環境整備（時間の確保、蔵書の充実、意欲を高める企画） |
|---|

- (1) 少人数でのきめ細かい指導の中で、発言、協議、発表、発信の機会をどの児童も数多く経験することができた。異学年交流を学習場面にも取り入れ、下学年に学習内容を紹介する等の経験を通して、自己有用感の高まりも感じられた。学力調査の結果からは、4年生、5年生が国語科、算数科において市の平均値を大きく上回った。一方で習熟度別指導を担当する臨時的任用教員が長期間任用できず、制度を最大限活用することができなかった。任用の困難さは今後も大きな課題であると考えている
- (2) 一人一台端末の活用については、デジタル教科書の導入、基本ソフトの変更など消極的になる要因もあったが、ICT 推進担当を各学年に配置し、主幹教諭が積極的に OJT としてクロームブック活用の授業の在り方、新しいソフトの紹介などの研修を企画実施し、幅広い教科領域での活用がみられた。低学年のタイピング習得には課題があり、今後も系統的な指導を続けていく。また市内のプログラミング大会で金賞を受賞した児童の作品や取り組みを全校朝会で扱い、啓発の機会とすることができた。
- (3) 校内研究は、本校児童の実態を踏まえ、学級担任、専科教員、特別支援教室、日本語学級という教員構成の誰もが主体的に参画できる内容として「自主的自発的な学びの実現」として取り組んできた。市教委の指導主事、他校校長を講師として招聘し、授業改善の在り方、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた「見方」「考え方」の育成について学ぶことができた。その成果を今後の授業改善に役立てていく。
- (4) 読書活動は毎週の地域ボランティアによる読み聞かせ、図書館司書の読書啓発、読書週間などの活動のほか、日野市在住の作家より児童に特別に著作を15冊寄贈していただき、図書室内にコーナーを設け紹介する等、読書啓発の契機とした。学級によってはビブリオバトルやポップ制作などに取り組んでいるケースもあり、好事例を全校に広げて読書意欲を高めていきたい。

2 心と体の健康づくり

- | |
|--|
| (1) 道徳教育の充実（ポストコロナ、Society5.0時代の新しいコミュニケーション）
(2) 豊かな国際感覚と、高い人権感覚をもつ児童の育成
(3) 個に寄り添った生活指導、教育相談の推進（いじめの未然防止と早期発見、SCによる全員面談）
(4) 外遊びの奨励と健康増進（生活リズム表の活用） |
|--|

- (1) 学校の教育活動全体を通じた道徳教育として、全校朝会、学級通信を通じて、「思いやり」の気持ちを育む児童の行為や思いを紹介したり、命の大切さについて語る児童詩を学級に掲示したりするなど、学校全体で思いやりの風土を醸成する取り組みを行った。道徳授業地区公開講座では、昨年度に引き続き東京都教職員研修センター制作の動画を活用し、40名を超える参加者による意見交換会を実施した。学校評価では「道徳教育」について「普段の生活で先生、先輩、友達との関わりや地域との関わりなどから自然と他者を思いやる行動ができるようになった」という保

護者のコメントをいただいた。次年度に向けて、八王子を題材にした教材を掘り起こし、年間計画に入れるなど、本校独自の指導計画を練り上げ一層の充実を図っていく。

- (2) 校内に開設している日本語学級へは校内の児童も複数名通級している。全校集会で日本語学級の様子を児童が主体となって紹介するなど、国際感覚を日常的に体得できるような環境づくりが進んできた。また地域連携の中では、障がい者、補助犬、保幼小連携の取り組み、地域の年配者との交流など、身近な環境の中から児童の自分事としての人権意識を高めている。
- (3) 毎週月曜日の「いじめ対策常時会議」は生活指導主幹を中心に児童の実態の共有場面として欠かせないものになっている。各学年からの報告や対応事例の他、SCを講師にした児童心理の理解、寄り添い方、発達検査の解釈などについても学びを深める時間を設け、「いじめを生まない環境づくり」から発生時の対応、その後のケアに至るまで実践的に学ぶことができた。小規模校の特性を生かし、SCによる児童全員の面談を実施し、関係職員とのフィードバックを行っている。
- (4) 休み時間の外遊びは基本的に奨励しているが、児童の興味関心、心理的なリラクセスの時間としての位置づけを尊重し、室内で過ごす児童も多い。しかし「体力調査」の結果等から児童の総合的な体力実態には課題が多い。そのため、長縄週間、縄跳び週間など、休み時間に全校で時間を限定して校庭に出る時間を確保し、運動の日常化を少しずつ広げている。次年度の学校目標の重点は「元気で」とし、運動に限らず、食育、規則正しい生活など、「健康」の在り方を考えられる児童の育成を目指していく。

3 特色ある教育活動

- (1) 保幼小連携、小小連携、小中連携、小中一貫教育の計画的な推進
- (2) 異学年交流、縦割り班活動の推進と進展
- (3) 特別支援教室拠点校、日本語学級拠点校を活かしたインクルーシブ教育の推進
- (4) 近隣の大学や諸機関と連携したESDの推進（環境保全、共生社会の実現）

- (1) 1年生、4年生、5年生を中心に保幼小連携の交流会を実施している。保育園、幼稚園を相互訪問する中で、園児の小学生体験や学校探検を児童が企画、実践するなど、小学校への滑らかな接続を目指して取り組んでいる。また3年生、6年生は柏木小学校の同学年児童と合同授業や交流を行っており、伝統文化体験、キャリア教育、中学校体験、などお互いの顔を知り、地域の同学年生としての自覚が生まれてきた。小中の連携として例年実施しているもの以外にも、本年度は数学科の教員が年間を通じて毎週月曜日に本校の6年生の算数科の授業を担当し、学力向上、児童理解の推進、教員同士の情報交換につながった。小中一貫教育の日には、それぞれの学校が工夫を凝らし、親睦が深まるスポーツ、仲間づくりゲームなどを実施し、中学校区内の教員間の距離が縮まった。
- (2) 異学年交流では、生活科、総合的な学習の時間などの学習成果の発表において他の学年に発表する形式が広がっている。相手意識をもち、学習成果をより自分のものとして深める契機にもなっている。教員同士も単元や授業者の入れ替えを増やし、学年と教員を固定的にとらえない土壌が少しずつできてきた。縦割り班活動は、奉仕活動の他ゲーム集会や縄跳び週間などにおいても、班の単位で活動する場面を増やし、交流が深まった。
- (3) 特別支援教育拠点校として、特別朝会、理解教育などでその内容を広く紹介する中で、本校においては通級そのものが「日常」として特別視されないものになっている。また日本語学級も集会、

壁面掲示などで学級の紹介を行っており、多様性を当たり前のこととして受け入れる素地ができつつある。今後の課題として、特別支援教育の理解教育をすべての学年で実施すること、日本語学級の学習発表会を本校の児童に直接伝える機会をもつことなどを一層進めていきたい。

- (4) これまでも本校では小山内裏公園での里山体験活動や地域の商店、公共施設の訪問などの学習を行ってきた。開校40周年の今年度は、持続可能な地域資源を改めて見直し、その活用と、幼保から高齢者までの多世代交流を深める場として小学校を位置づける「南大沢ブランディング」教育構想を展開した。JQA、ヤマザキ動物看護大学、全薬工業などの近隣施設に学校の教育構想を発信し、共感的理解のもとに互恵関係が作れるような交流の在り方を模索した。4年生の大学の授業体験、5年生の企業訪問、6年生のキャリア教育は、本校の新しい特色として、さらに充実させていきたい。

4 地域・家庭と連携した協働的な学校づくり

- (1) 学校運営協議会と連携し、地域の教育資源（人・もの・こと）を活用した教育の充実
(2) 開校40周年の記念行事を通して、郷土と学校に対する愛着を深める
(3) 地域防災組織と連携し、体験を重視した実践的な防災教育の充実
(4) 学校からの積極的な情報発信と地域行事への参加促進

- (1) 学校運営協議会との連携では、開校記念式典に関連して特別講演会を複数回実施するなど、児童と直接かかわる機会を多くもった1年だった。地域キャリア教育協力隊との連携、防災体験会のサポートなど、これまでの取り組みに加え新しい企画も進め、地域の教育資源の活用をプロデュースする役割を担った。「南大沢ブランディング」教育構想について、賛同と助言を得ながら基礎作りができた年となった。
- (2) 開校40周年記念行事では、運動会、音楽会などの行事も「周年」を意識し、地域全体で学校の歴史を振り返り、お祝いの気持ちを高める取り組みを計画的に行った。開校記念式典に向けては、記念の児童集会を共催しながら、全学年が地域や学校の歴史を知り、愛着を高めることができた。記念歌の制作、メモリアルルームの開設、横断幕の制作、記念樹の植樹など、記念の年を強く印象付ける取り組みを行い、その記録を残したことも大きな成果であると考えている。
- (3) 地域防災そのものは学校主体の企画ではないが、災害時在籍児童や家族も直接かかわる実践的な防災訓練が必要と考え、学校運営協議会とも連携し、地域防災実行委員会が主催する「地域防災訓練及び宿泊訓練」を初めて実施した。地域自治会、団地やマンションの組合、放課後子供教室、八王子市、都立大学、子ども食堂などの協力も仰ぎながら40名ほどの参加を得て、第1回の訓練を実施できたことは非常に大きな成果だと考えている。次年度以降児童の主体的な参加を含め、持続可能な継続方法を検討していく。
- (4) 年2回の青少対クリーンデー、毎月水曜日のおはようコミュニケーションデーの他、フラワーフェスティバル、夏祭り、ラジオ体操、屋台選手権など、地域を舞台とした行事に積極的に児童が参加できるよう、啓発につながる情報発信を行った。地域の中で顔がわかる交流を今後も推進していく。

5 組織的な学校経営と職務の適切な執行

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 校務分掌組織の改編と経営支援部、企画調整会議の機能充実による効率的な校務運営(2) 教員の教師力、授業力向上を目指した校内OJTと校内研究・研修の活性化(3) 校務運営全般におけるSDGsの視点に基づいた人権感覚と環境配慮意識の向上(4) 服務事故の未然防止と意識向上を図る研修の充実(5) 働き方改革を推進し、教職員の自己実現と活力ある学校づくりの両立 |
|---|

- (1) 小規模校の常として、業務多忙、マンパワーの不足が挙げられる。教職員の在勤時間の短縮と効率的な校務運営は喫緊の課題である。企画調整会議において時間をかけて校務分掌組織の改編を検討し、実施した。また休憩時間の設定を工夫し、15時25分から16時10分までの休憩時間とすることで、確実な休憩時間と会議時間の確保が可能となった。しかし、業務量の偏りや長時間勤務の実態は依然としてあるため、その解消に向けて改善を図る。
- (2) 校内研究を全教員が主体的に参加できる内容とし、課題や改善策を共有できる場面が増えた。また、毎学期実施している授業観察を校内研究と連動させ、「自主的自発的な学び」を実現する工夫を指導案上に明記することで、小規模の学校であっても実践事例を数多く積み上げることが可能となった。全校体制による研究は、授業改善の意欲を高め、学力向上にもつながったと考えている。
- (3) 職員会議のペーパーレス、保護者配布文書の電子化（一部学級通信を除く）、クロームブックの活用などにより、紙の消費量は大幅に減っている。八王子市の環境対策により校内の自動水栓化、すべての蛍光灯のLEDへの置き換えなどにより、CO2の排出は減っている。こうしたデータを見える化し、児童の学習に生かせるように整理していくことが今後の課題である。
- (4) 服務事故防止の研修は管理職による毎学期の悉皆研修以外に、副校長、主幹教諭が毎月の夕会において自身の経験などを語り合う短い研修会を企画、実施した。また校長発信で教育課題や服務に関する時事ニュースを紹介し、新しい教育課題への関心を高めると同時に、服務事故防止の意識改革につなげた。
- (5) 教職員の在勤時間はこの3年間で大幅に減少した。勤務時間内に業務を終了できるようなタイムマネジメントを学び、心身ともに健康な職場環境を実現できるよう、業務内容の検証、休暇取得の奨励、心理的安全性の高い職員室環境を引き続き追求していく。